

令和3年度第3回総合教育会議 会議録

1. 開催日時 令和4年1月25日(火) 15:30～16:40

2. 開催場所 西条市庁舎新館4階404会議室

3. 出席者 【構成員】

西条市長 玉井 敏久
教育長 伊藤 隆志
教育長職務代理者 河本 千恵子
委員 鳳 慶洲
委員 福田 亜弓
委員 一色 一成

【構成員以外】

経営戦略部長 高橋 雄次
総務部長 矢畑 淳
市民生活部長 曾我部 道昌
管理部長 三好 昭彦
指導部長 松井 直樹
市民生活部副部長兼市民協働推進課長 渡邊 英俊
人権擁護課長 安倍 和紀
教育総務課長 戸田 章裕
教育総務課主幹 村上 彰彦
社会教育課長 前谷 浩教
指導部副部長 合田 公昭
学校教育課長 松本 卓也
学校教育課主幹 黒河 幸彦
教育総務課副課長兼教育総務係長 佐竹 浩
教育総務課専門員兼教育施設係長 高木 克彰

【事務局】

経営戦略部副部長兼秘書課長 大西 保彦
政策企画課長 吉井 靖仁
政策企画課専門員兼政策企画係長 大久保 武
政策企画課政策企画係副主査 今井 詩美
政策企画課政策企画係主任 越智 太紀

4. 市長挨拶

本日はお集まりいただき感謝申し上げます。現在、多くの方が、新型コロナウイルスに感染し、

園児、児童、生徒といった若年層にまで蔓延している状況にある。私たちのできる感染回避行動を徹底して、学校における子どもたちの安心安全につなげたい。本日は、将来に向けた魅力的な学校教育環境のあり方について、愛媛大学教育学部副学部長の露口先生にオンラインでご講演いただくこととしている。先代、先々代の市長、そして私自身も子どもの声がある限り小学校の統廃合はしないと言ってきた。しかしながら、令和2年度に行ったアンケート調査の結果は、私たちの考えと異なるものであった。私たちは地域を守るため学校をひとつの核として考えているが、子どもたちにとってより良い教育環境が何かということを考えると、学校の適正規模を考えなくてはいけないと思うようになった。タウンミーティングでは、小規模学校の地区に行くと、例えば、小中一貫の学校運営にすることで地域に学校を残すことはできないかといった声があった。もう一度、原点に立ち返り、子どもたちにとってより良い教育環境を追い求めていかなくてはいけない状況にあるのかなと思う。本日は、将来に向けた魅力的な学校教育環境のあり方として、方向性を定める分岐点にしたいという思いのもと露口先生にご講演いただくことになった。これをきっかけにして次の議論に進めたいと考えている。今日で結論がでるわけではないので、露口先生には引き続きご指導をいただきながら子どもたちにとってより良い教育環境を求めていきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

5. 講演

(1) 将来に向けた魅力的な学校教育環境のあり方について

【愛媛大学教育学部副学部長 露口 健司 教授の講演】

(2) 質疑応答

一色委員 「調整済みの非認知能力への効果」の説明で、様々なことに取り組むことで結果的に子どもたちの非認知能力向上に効果があるという話があったが、効果をあげるためには先生の授業や指導に対する姿勢が左右するのかどうか教えていただきたい。

露口教授 仰る通り先生の授業や指導に対する姿勢が重要になる。非認知能力を伸ばすためには、従来型の一斉授業のスタイルから切り替えていかなければいけない。そのためには、先生に一定の研修や学習が必要になる。主体的、対話的な、深い学びの授業スタイルを実践している先生はICTの活用も自然にできている。従来型の一斉授業のスタイルに固執している人はあまりICTを活用できていない。将来的にデジタル教材を使わなければいけないという話がでてくる。ICTを活用してテストを実施するという話になると、ICTを使わない授業はいよいよ苦しくなる。

河本委員 子どもたちの学びや地域の関わりを深めるためには、つながりの視点を持つことが大事なのではないかと思う。学校再編でもつながりを一つの切り口として考えなくてはならないと考えている。学校再編で地域が広がるとつながりが薄くなるという課題がでてくると思うが、つながりを薄くさせないための方策、取組みなどがあれば教えていただきたい。

露口教授 学校再編でつながりが薄くなる部分はもちろんあるが、一方で学童や放課後の補習体制などサードプレイスが強化される。部活動もできるようになる。つながりが薄くなるのであれば強化する部分を提案するというのが、ひとつの手だと考えている。そのときに子どもを取り巻くつながりの部分を一番に考え強化していく。ここが教育上一番重要。学校再編に伴うつながりについてはプラスになるように考えることが大事。

鳳委員 先程の露口先生のお話の中に「保護者の孤立、百害あって一利なし」という言葉があった。保護者と先生の会であるPTAの組織率が全国的に下がり、入らなくていいよ、というような話もある。そのあたりの話と地域の関係性について何かお話があれば教えていただきたい。

露口教授 PTAは、運営の形が古いところは厳しくなっている。役員の選任について、くじ引きや欠席裁判などは言語道断。私の住む東温市では、役員を決める際に選挙を行っている。子どもの名簿を配布して、この子の親みたいな形で投票する。この方法だと断る人が少ない。選ばれるご家庭は不思議と先生とつながりのある子が多い。選挙方式は少し手間がかかるが、役員の選び方は重要。また、現在のPTA活動のなかで魅力的といえる活動があるか。そうではない活動が残っていることが多い。充実感が得られにくくなっている。役員の任期もその要因。会長が一年で交代するようところは改善しにくい。以前住んでいた福岡県はPTA活動が活性化していたが、会長の任期が長かった。将来的なビジョンのある方が複数年されている。PTA活動の活性化はマネジメントの問題だと思う。地域行事に関しては予算や設備のことがあるので行政側の熱意が大きいと思う。親子が参加できるような地域行事については、行政で方向性を示して計画的に進めることが必要であり、行政のリーダーシップの発揮のしどころと感じている。

福田委員 ウェルビーイングということで肉体的、精神的、社会的すべてにおいて満たされている状態を実現するための秘訣があれば教えてほしい。

露口教授 幸福心理学という分野があり、幸せの特徴を12の要素でまとめている。例えば、幸せになるためには感謝を口にする。ありがとうは言われた方は嬉しいが、実は言った本人が幸せといった世界観がある。自分幸せ、まわり幸せといった状態を作らない限り個人が幸せになることは難しい。集団のなかで生きているため、自分だけ幸せになることは困難。幸せは人に伝播する。ちょっとしたことに気が付いてありがとうと言う。おしゃべりすることも大事。おしゃべりは幸せの秘訣。さらに、物事を楽観的に捉えることが大事。許すことも大事。憎しみや妬みからは幸せは生まれない。笑うことも大事。幸せだから笑うのではなく、笑うから幸せというフレーズもある。

教育長 学校再編で地域の声がなくなるという話が市長からあった。そういうものにどう対応するかといったところに目が行きがちだが、子どもたちの幸福のために学校の規模とか勉強の質がどうあればいいかという視点を明示いただいたのは大変勉強になった。

私が中学校のとき、全人教育の指定校というものがあり、玉川学園の小原國芳先生が西条南中学校に来てPTA向けに講演されたことがあった。その後、小原先生が掲げる真、善、美といった人間形成に必要な価値を額にして何十年も飾っていたような記憶がある。令和になっても先生がお話された非認知能力の向上は非常に大切であるなど改めて感じた。そのなかでもレジリエンス、子どもたちが失敗して落ち込んだりしたときに、そこから起き上がるような力を学校教育のなかでつけていかなければならないと感じた。大変示唆に富んだ話でこれから、再編を検討する上でのスタートになったと考えている。

市長 児童生徒が減少していくなか、将来的な子どもたちの学校教育環境がどうあるべきなのか、よりよい方向を探求していきたいと考えている。市長部局と教育委員会が足並みを揃えて丁寧に取り組んでまいりたいと思うので、引き続きご指導をよろしくお願ひしたい。

6. 閉会

市長 本日も活発なご意見、ご質問をいただき感謝申し上げます。繰り返しになるが、皆様と積極的に意見交換を重ねるとともに、地域の方や学校現場の声を聞きながら本市の教育行政のあり方を考えていくことが何より大切だと考えている。子どもたちのウェルビーイングを求めていきたいと思う。